

令和5年度 第2回

長岡市文化財保護審議会 次第

日時：令和6年2月26日（月曜日）

午後1時30分から午後3時30分まで

会場：さいわいプラザ3階 中央公民館305教室

1. 開 会

2. 教育部長挨拶

3. 協議題等

(1) 令和6年能登半島地震による文化財関係被害状況について

(2) 長岡市指定文化財「順動丸シャフト」の保存処理について

(3) 新潟県指定文化財「鞍掛神社」屋根の茅葺き替えについて

(4) その他

4. 見 学

科学博物館企画展「長岡藩主牧野家のおひなさま展」（企画展示室）

5. 閉 会

【配付資料】

(1) 令和6年能登半島地震による文化財関係被害状況について

(2) 長岡市指定文化財「順動丸シャフト」の保存処理について

(3) 新潟県指定文化財「鞍掛神社」屋根の茅葺き替えについて

令和 6 年度能登半島地震文化財関係被害状況

令和 6 年 1 月 12 日 9 時現在

報告課名	教育部 科学博物館
報告者 職・氏名	館長 小熊博史

対応課名	施設名 (場 所)	発生時刻	被 害 状 況	対 応 状 況
科学博物館	旧長谷川家 住宅	1 月 1 日午 後 4 時 10 分以降 (地 震発生後)	主屋・蔵の壁面 (漆喰) 等に多 数のヒビ割れ	1 月 2 日、現地で状況を確認。
科学博物館	埋蔵文化財 収蔵センタ ー (中潟町)	1 月 1 日午 後 4 時 10 分以降 (地 震発生後)	土器復元品が転倒して破損 (約 10 個体)	1 月 2 日、現地で状況を確認。
科学博物館	与板歴史民 俗資料館	1 月 1 日午 後 4 時 10 分以降 (地 震発生後)	1 階展示室にある萬歳閣の仏像の 一部 (手と光背) が脱落	1 月 2 日、現地で状況を確認 (支所地域振興課)。
科学博物館	白山媛神社 (寺 泊 大 町)	1 月 1 日午 後 4 時 10 分以降 (地 震発生後)	「白山媛神社奉納船絵馬」(同神社 所有、52 枚) のうち、1 点が落下。 絵馬表面の和紙の一部が損傷、絵 馬の木枠の一部に歪みが生じた。	1 月 2 日、現地で状況を確認。
科学博物館	入澤記念庭 園 (中之島 西野 300 番 地 1)	1 月 1 日午 後 4 時 10 分以降 (地 震発生後)	灯籠が転倒した。	1 月 4 日、現地で状況を確認。



旧長谷川家住宅

主屋・蔵の外壁・内壁等に多数のひび割れ。



旧長谷川家住宅

主屋内壁のひび割れ



旧長谷川家住宅

帳蔵外壁のひび割れ



旧長谷川家住宅

表門脇庭塀の傾斜



埋蔵文化財収蔵センター

収蔵資料の落下破損



与板民俗資料館

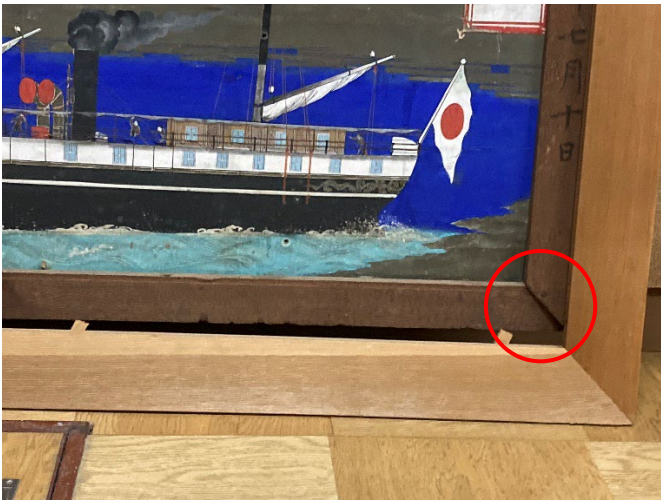
「萬歳閣」関連仏像、光背・手の脱落



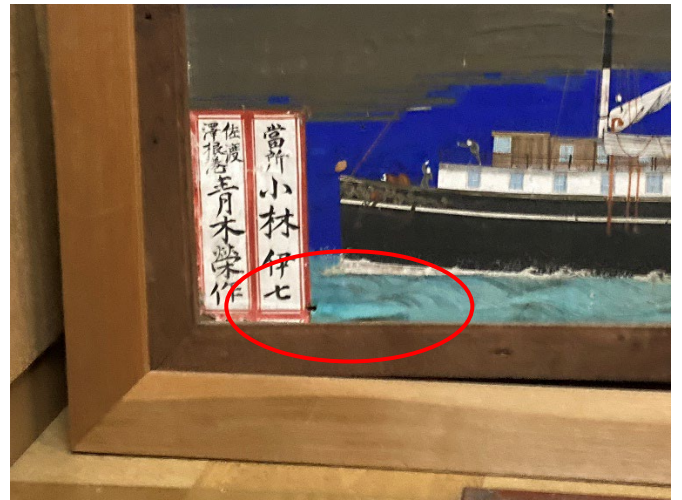
白山媛神社船絵馬収蔵施設
地震による絵馬の落下



「越佐高田丸」船絵馬
落下した「越佐高田丸」船絵馬、表面の亀裂



「越佐高田丸」船絵馬
木製フレームのゆがみ



「越佐高田丸」船絵馬
絵馬表面の和紙の一部分に皺・たわみ



入澤記念庭園
灯籠の倒壊

長岡市指定文化財「順動丸シャフト」の保存処理について

名 称:市指定文化財 有形文化財「順動丸シャフト」

管 理 者:長岡市

指定年月日:昭和54年3月29日

概 要:順動丸は文久元年(1861)にイギリスで建造され、文久2年(1862)に江戸幕府が横浜港で15万ドルで購入した鉄製の蒸気外輪船。戊辰戦争下の慶応4年(1868)5月24日、寺泊沖に碇泊していたところ薩長軍の軍艦2隻から砲撃を受け、寺泊の浅瀬で座礁した。その後、敵に船を奪われることを恐れた船員の手により自爆。船体は明治2年に解体されたが、外輪を動かしたシャフトだけは寺泊に残された。昭和54年に寺泊町指定文化財に指定され、場所を変えながら展示されてきたが、近年錆による劣化が急速に進み倉庫で保管していた。今年度、国の補助を受けて保存処理(脱塩・防錆処理)を実施。ガバメントクラウドファンディング(GCF)も活用し、全国から約735万円の寄付が本事業に寄せられた。また、文化財を地域に伝えるための第一歩として地元長岡市での保存処理を選択し、技術指導者に東北芸術工科大学の伊藤幸司教授を迎え、糖類(トレハロース)を使った防錆処理を採用。これほど大きい金属製品を専門の機関以外でトレハロースを用いて処理するのは、世界でも初の試みとして注目された。保存処理後のシャフトは、順動丸や幕末の長岡の歴史を知ってもらうため広く展示等に活用していく予定である。



表面処理中の順動丸シャフト(令和6年1月31日撮影)

① 着手前	② 実測
	
③ クリーニング	④ 強化・接合
	
⑤ 脱塩処理	⑥ 防錆処理
	
⑦ 引き上げ	⑧ 表面処理
	

「順動丸シャフト」保存処理事業工程

県指定文化財「鞍掛神社」茅葺屋根差し茅修繕について

名 称: 県指定文化財 有形文化財「鞍掛神社」

管 理 者: 鞍掛神社氏子(長岡市中之島宮内)

指定年月日: 平成4年3月27日

概 要: 弘仁13(822)年に創建せられ、祭神は弥彦神社祭神である天香語山命(あまのかぐやまのみこと)の異母弟と伝えられる「可美真手命(うましまでのみこと)」。壮大な構えを持っていたといわれているが、元禄3(1690)年に火災により焼失し、翌年に再建された。なお、この時の棟札も神社に現存している。

また、昭和36(1961)年には第二室戸台風により被災した。昭和59(1984)年に新潟県による建造物の悉皆調査時に屋根がトタン葺きになっているなど後世の手が入っているが、本殿と拝殿が1つの建物に収まる籠堂的な性格を持つ神社として評価され、平成元(1989)年に旧来の姿に復元する工事を行った。平成4(1992)年に新潟県の有形文化財に指定された。

指定後も、中越地震の被災による修繕のほか、平成23(2011)年に新潟県の補助を活用し差し茅修繕を行うなど保全を行ってきた。令和3年に氏子より差し茅修繕の相談があり、新潟県との協議により翌令和4～5年の2か年にわたり事業を行うことが決定し、差し茅修繕を行った。



鞍掛神社(平成4年撮影)

差し茅前



西側

差し茅後



西側



南西側



南西側



東側



東側



北東側



北東側